

飯綱町袖之山地区にある舟石は昔から“知る人ぞ知る”巨石でしたが、平成12年（2000）にバイパス道路が開かれたことにより、通りすがりの車の窓からもよく見える存在になりました。最近では春の観光シーズンに、県指定天然記念物の「袖之山のシダレザクラ」とあわせて訪れる観光客も増えています。

長さ9.6メートル、地上に出ている高さは4.3メートルの輝石安山岩で、重さは約500～600トン以上と推定されるとのこと。石の先端が高く跳ね上がっていて、それを船の舳先^{へさき}のようだと見た昔の人が舟石と名付けたのでしょうか。

地質学的に見ると、この石は古飯綱火山を形づくっていた溶岩で、数十万年前に水蒸気爆発かなにかをきっかけに山体が大きく崩壊し、それによって発生した「岩屑^{がんせつ}なだれ」という現象によってはるばる袖之山まで運ばれてきたものとのこと。大地は人の想像を絶する規模で動いているのだということに驚きを覚えます。昭和6年（1931）、当時高名な地質学者の^{おがわたくじ}小川琢治博士が袖之山周辺の巨石を調査。「これらの巨石の分布は、かつてこのように標高の低い地域にも氷河があったという証拠がある」という説を唱え、地質学上の大論争「低位置氷河論争」を巻き起こしました。この学説は現在では否定されていますが、この論争の結果、日本の氷河に関する地質学的な研究が飛躍的に発展することになったようです。

この石の上面には1本の割れ溝があります。そこにはいつも